

チャレンジコミュニティ



Challenge Community Club

通信 第50号

2023.8 vol.50



芝公園の百日紅



2023 年第 8 回総会・ホームカミングデイ



明治学院高校ゲストスピーカー



2022 年度 15 期生修了式

CONTENTS ■ごあいさつ

港区長

武井 雅昭

明治学院大学学長

村田 玲音

CCクラブ代表

阿部 令子

■ 2023 年度 CCクラブ新体制の紹介

■ 2023 年第 8 回CCクラブ総会(書面議決報告会)・
ホームカミングデイ講演会(第 9 回学ぶ会)

■ 学ぶ喜びと出会いをありがとう!

～15期生から寄せられた声～

■ 明治学院高等学校家庭科授業ゲストスピーチ

■ 運営委員会報告

チャレンジコミュニティ・クラブの皆さんへ

■港区長 武井 雅昭

チャレンジコミュニティ・クラブの会員の皆さんには、日頃から、地域活動の担い手としてご活躍いただくとともに、港区政の運営に対しても、格別のご理解とご協力をいただいております。深く感謝申し上げます。



本年5月8日から、新型コロナウイルス感染症は感染症法上の5類に移行しました。個人の選択を尊重しながら、それぞれの立場で身近でできる有効な感染対策により、徐々に感染拡大前の日常に戻り、社会経済活動を加速させる段階に入っています。地域でも、お祭りをはじめとしたコミュニティ活動が再開するなど、まちのにぎわいが戻りつつあります。

コロナ禍以前から、チャレンジコミュニティ・クラブの皆さんには、地域課題の解決に向けて、区民参画による検討組織への参加やボランティア等の地域福祉活動など、多方面でご活躍いただいているほか、地域の誰もが気軽に参加できるカフェの開催や、お手玉、けん玉などの昔遊びの継承活動等、地域の方々が交流を深めることができる機会の提供を続けていただいております。地域コミュニティ育成と活性化への多大なる貢献に、大変感謝しております。

区は、区民一人ひとりが大切にされ、多様性を認め合い、だれもが安全に安心して、自分らしく心豊かに暮らすことのできるまちをめざしています。その実現のためには、地域活動に積極的に取り組んでいただく、コミュニティリーダーの存在が欠かせません。

チャレンジコミュニティ・クラブの皆さんにおかれましては、これまで培ってこられた知識や、経験を存分に生かし、引き続きのご協力をよろしくお願い申し上げます。

結びに、チャレンジコミュニティ・クラブの今後の益々のご発展と、会員の皆さんのご健勝、ご隆盛を心からご祈念申し上げます。

チャレンジコミュニティ・クラブの皆様

■明治学院大学学長 村田 玲音

2020年春に始まったコロナ禍も、ようやく終息の兆しが見えてきました。皆様はこの3年間をどのように過ごされたのでしょうか。ほとんどの方がコロナ前にチャレンジコミュニティ大学を修了しておられると思



いますが、コロナ禍の中でチャレンジコミュニティ大学の授業を遠隔で受けられた方もいらっしゃるでしょう。こういったタイミングであっても、身につけた知識や経験を地域社会で活かしていこうと張り切っておられた皆様にとって、コロナ禍で社会の機能が低下していた時期にはそれが叶いませんでした。ようやくここに来て、社会活動や経済活動が元に戻り始め、皆様が活躍できる舞台が整ってきました。これから、コミュニティリーダーとして多方面で社会の活性化に取り組んでいかれますよう期待しております。

皆様のご活躍を待っている社会は、コロナ禍を潜り抜けたことにより、変化が以前より少し速くなっているような印象を受けます。コロナ禍の3年間、社会も大学も不自由な中でどのようにしたら以前の活動を続けることができるのか一生懸命努力をしてきました。その成果が、コロナが収まった後も置き土産のように私達の手元に残っています。インターネットの利用が予期しなかった規模で様々な分野にまで拡がり、私達の社会生活に大きな影響を与え始めています。これから地域社会のリーダーとして活躍される皆様の活動も、おそらく社会の動きに合わせて変化させていくことが求められることでしょう。そうした際には、しっかりした知識が頼りになります。チャレンジコミュニティ大学での授業や体験が、皆様の支えになってくれることを明治学院大学は願っております。

皆様の御健康をお祈りするとともに、今後の御活躍を期待しております。

チャレンジコミュニティ・クラブ 代表就任にあたって

■CCクラブ代表 阿部 令子(10期)

この度、若輩ながらCCクラブ代表という重責をお引受けすることとなり、身の引き締まる思いです。

これまで、長年にわたり先輩方が培われてきたCCクラブの活動の場を大切に引き継ぎ、更なる発展に繋がりますように務めてまいります。

CC大学在学中は、多くの仲間にも恵まれて楽しく学び、修了してからは企画部会にて、学ぶ会やまち歩き、講演会の開催などに携わって参りました。その間、CC大学に入学しなければ、出会うこともなかった方々と関わりを持つことができました。その豊かな経験や目標となる生き方に触れられることは、今の私にとって大切な心の財産となっています。

CCクラブでは、何事も強制ではなく、やれる人がやりたい事を行動に移し、時には周りを巻き込んで、その結果として、誰かが笑顔になり、誰かのお役に立つ、そして更には自らも活力を得て心も豊かになるボランティア活動が、あちこちで行われています。皆さまの年齢を感じさせない情熱溢れる行動は、地域で無くてはならない存在となっているのではないのでしょうか。

先輩方のお力で、何もなかった所に一から築き上げてきた組織も、15期生を迎えて約750名の会員数となり、活動の場も広がっています。

今後も、港区様、明治学院大学様、港区関連団体様など、多くの方々との繋がりを大切にしながら、CCクラブ会員の皆さまが益々ご活躍いただけるように、お手伝いができましたら幸いです。

これからの事を考えると不安しかありませんが、皆さまからいただいた温かい励ましのお言葉と心強いお力添えを頼りに、できることは精一杯務める所存です。

思い立った時に、帰ることができるホームグラウンドのCCクラブが、皆さまにとって益々居心地の良い場所になりますように尽力して参りますので、ご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



チャレンジコミュニティ通信は、 地域活動推進の情報を提供します

港区は、2007年4月に地域活動のリーダーを養成することを目的として、明治学院大学との連携により、チャレンジコミュニティ大学を開設しました。この大学は港区在住の60歳以上の方を対象に各々がこれまで培ってきた知識・経験を地域に生かし、生きがいのある豊かな人生を創造し、また学習を通じて個々の能力を再開発することを目指して創設されました。

2008年3月、第1期生の修了を機に自主的な運営組織として、チャレンジコミュニティ・クラブ(略称CCクラブ)が創設されました。この大学で学んだ知識を活用し、地域課題の解決に向け、会員が地域活動を推進することを目的としています。このクラブは地域活動のリーダーを育て、港区のまちづくりや地域ネットワークの構築を進め、併せて各人の資質の向上をはかっています。

この目的に沿って、CCクラブ会員が自主的に地域活動をしています。CCクラブ会員を対象に地域活動推進の情報提供や活動状況を紹介するため、チャレンジコミュニティ通信を発行しています。

年間を通しての全体活動として、主な活動は以下のようなものがあります。

- ・総会、ホームカミングデー
- ・明治学院大学との協働活動
- ・みなと区民まつりへの参加や港区との協働活動
- ・港区社会福祉協議会地域福祉フォーラムの運営協力や協働活動
- ・活動報告会

また、地域での活動として各地域CCクラブでの活動や多くの活動機会ができています。

- ・芝CCクラブ(芝地区)
- ・明虹会(芝浦・港南・台場地区)
- ・高輪地区CCクラブ(高輪地区)
- ・3Aクラブ(麻布・赤坂・青山地区)

様々な機会を通してご自分でできることを探しチャレンジしてみてください。

また会員相互の情報としては、各団体等での会員の活躍状況や、クラブ企画の講演会・講習会、施設見学会の開催案内等を適宜紹介していきます。

2023 年度 CCクラブ新体制の紹介

副 代 表

瀬能 正実(10期)

CC大学 10 期生を修了後、10 期第2グループの運営委員そして会報部会員としてワークし、又高輪地区CCクラブの一員として活動してきました。対外活動



としては、地域のお母さん方が行っていた「みなと外遊びの会」(子どもの遊び場提供)についてNP法人化させ区役所他多くの方と交流を深めるなどしてまいりました。その過程で、多くの方々と知り合い、多くのことを学ぶことができました。今年から副代表に選任されており、この6年間に培った経験を生かすべく注力したいと思っています。

今やCCクラブ会員は 750 名余と非常に多くなっており、メンバー間のコミュニケーションを良くすること、会員の方々へのタイムリーな情報提供を試みる事が大切と思っています。そしてメンバーが行う地域活動の充実につながるよう注力する所存です。

副 代 表

松嶋 恵美子 (10期)

CC大学 10 期生(第3グループ、担当: 明石先生)を修了しました。修了後は3Aクラブに加入し、運営委員会にも参加しておりました。



現在は、税理士として仕事をしながら、地域活動として、港区より介護相談員の委嘱を受け活動しております。

今回、副代表に選任され新たに身の引き締まる思いです。副代表として、今までの運営、組織を受け継ぎながら、各個人、運営委員会、各部会、各地域CCクラブとのコミュニケーションを大切にしたい、会員皆様の声を、CCクラブ全体の活動に反映できるように頑張りたいと思います。

既にCC大学の修了生の方が各方面でご活躍ですが、新たに始めたい方への地域活動への情報を発信し、応援していきます。

私たちは今、人生 100 年時代を生きています。

後世の人たちに、生き生きとした社会生活で生きる意欲を証明しましょう。

企 画 部 会

太田 則義 (7期)

今年度の企画部会は2期~15期 21名の部会員で、そのうち12期~15期の会員が16名です。

2022年度から一部の活動が再開され、2023年度はコロナの行動基準が緩和されたこともあり、より一層地域活動が活発になると思われます。すでに期初より会議を進めCCクラブ全体の企画を担っている当部会は部会活動全開です。

CC通信 50 号が刊行される時には、最初の行事であるホームカミングデイ講演会(第9回学ぶ会)が紹介されます。学ぶ会は今年度あと2回開催します。それに関連するまち歩きも行います。みなと区民まつり、社協と運営する「JALインフォテック・デジタル講習会」、また、2024年2月活動報告会講演会も企画します。そのほかにも部会員で新しい企画を皆さんに提供したいと考えています。

皆さまと一緒に有意義なそして楽しいCCクラブライフを考えていきたいと思ひます。



ホームページ部会

岡部 正實 (10期)

HP部会は今年、部会長が交代しましたがメンバーは昨年と変わらず6名で活動を開始しています。CCクラブ会員間の情報発信ならびにCC大学及び所管行政との相互に関連する情報を掲載しており、例えば運営委員会・各部会・地域CCクラブ・各期の活動状況をタイムリーに発信し、それらをアーカイブとして保存することを主たる目的として活動しています。

また、各種行事やイベントのアナウンスや、規約・会則、各種会議の議事録、年間会議予定ならびに投稿の手引きやZoomシステムの予約もこのサイトから行えます。是非HPを開いて活用して下さい。(www.minato-ccc.jp/member/)

部員は定期的にHPの保守点検を当番制で担当すると同時に、個人のデジタルスキルの向上にも

力を入れています。

ただいま新入部員を募集中です。IT技術・デジタルスキルを身につけたい方や、情報発信・コミュニケーション能力を高めたい方、写真・動画編集などに興味のある方は大歓迎です。

(連絡は→ cc.hp.2023ok@gmail.com)



地域連携部会 金原 智子 (10期)

今年度の地域連携部会は11名で活動を開始します。コロナの感染状況を注視しながら対面での部会を行う予定です。

主な活動であるクローズアップCC、1Day for Others、この指とまれ、地区CC会議の開催、を部会員がそれぞれ主体的に進めていきます。

昨年は異世代間の交流を図ることを目的として「昔遊び継承活動」を行いました。用いる遊具の一つのお手玉は地域の方を講師として布から作製し、部会員や地域CCクラブ会員、明治学院大学生、小学生のPTAの方々を交えた練習会を行い、赤羽小学校の授業協力に結び付けました。今年はより多くの参加者を募り「昔遊び広げ隊」としてなお一層の広がりをめざします。CCクラブの皆様、昔取った杵柄でご参加お待ちしております。

また、今年は「チャレンジコミュニティ・クラブ 2023 年活動実態調査」が高輪支所と共同で行われます。CCクラブ員の皆様の協力を得ながら部会としても携わっていきたいと考えています。



会報部会 瀬能 正実 (10期)

昨年度に引き続きメンバーとなってくれている7名に、新たに11期生の方1名と15期生4名の

方が参加され、総勢12名で活動することになりました。CCクラブ通信の発刊が主な業務であり、今年度は7月末の発刊と来年3月の発刊を予定しています。内容は港区・明治学院大学関係者の挨拶、CCクラブの活動報告が主たる業務ですが、今年こそ会員皆様の活動内容紹介をとりあげたく皆さまの投稿をお待ちしています。

部会員の手で入稿データをつくる方法も部会内で浸透してきており、CCクラブ会員で冊子作製にご興味ある方は是非会報部会をご訪問下さい。



総務部会 岩佐 徳太郎 (9期)

CCクラブはクラブ内の円滑な運営を図るため、毎月1回運営委員会を開催しています。総務部会はその運営委員会の資料や議事録の作成、さらに運営委員会の議事録、各種お知らせ等を一斉メールにより会員の皆様へお知らせしています。

また、CCクラブの最高意思決定機関である総会及び活動報告会、ホームカミングデイ等の運営を支援しています。

ここ数年の新型コロナウイルス感染禍においては、感染を避けるためオンライン会議を行い、オンラインツールであるZoomを活用した会議を実施してきました。

また、港区行政、明治学院大学や港区社会福祉協議会等との連携を図り、それらの関係先から得た情報をCCクラブ会員に提供しています。

次の写真は総務部会の皆さんです。時には総務部会をお茶会にして、楽しく活動できるように懇談しながら進めています。皆さんも総務部会で一緒に活動しませんか。



2023 年第 8 回 CC クラブ 総会 (書面議決報告会)・ホームカミングデイ

2023 年の総会とホームカミングデイは、新型コロナウイルス感染状況が予測できなかったこともあり、4 月の運営委員会にて総会議案については書面表決とし、総会を書面議決報告会としてホームカミングデイ講演会と合わせてリモートと会場で行うことになりました。

6 月 17 日 (土) 13 時 30 分～14 時 40 分で明治学院大学 3201 教室の会場には会員 112 名、来賓 9 名の方が集まり、リモートには 20 名の会員が参加し開催されました。

当日は梅雨のなか天気恵まれ、11 時 30 分に運営委員、部会員そして一般の会員約 30 名がスタッフとして集まり、会場準備をしました。会場では感染症対策も緩和され、会場参加者は会員と来賓者を合わせて昨年より 73 名多くなりました。

13 時 30 分に太田則義副代表 (7 期) の司会で始まりました。

CC クラブ 石川啓子代表 (8 期) 挨拶

まだコロナ禍は収まってはいませんが、対面中心の生活が戻ってきました。コロナ禍での数年は、長い人生の中ではほんの数年なのですが、社会情勢が大きく変わりました。しかし、この一年間の CC クラブの歩みは、新しい技を身に付けた高齢者たちが、英知を出し合い、学びを生かし、情報の共有を力として、活動を止めることはありませんでした。

本日、ご参会くださいました来賓の方々、会員の皆さまに心からお礼を申し上げます。

明治学院大学 永野茂洋 副学長 挨拶

明治学院大学は来年 4 月から新しく情報数理学部を開設する予定で現在準備を進めております。白金キャンパスは見た目の変化はありませんが、横浜キャンパスでは新校舎の建設が大々的に始まっています。AI 時代の大きな変化に対応する一方、今後も明治学院の「キリスト教による人格形成」を大切にして、地域福祉、地域のまち作り、人と人のつながりに貢献していく卒業生を輩出していきたいと考えています。

日頃からこの地域のために様々な活動しておられる CC クラブの皆様に心より敬意を表すと共に、これからもなお一層活発にご活躍されますことを願っております。

港区高輪地区総合支所 白井隆司 支所長 挨拶

コロナ感染症の感染拡大も落ち着きはじめ、徐々に街に賑わいが戻ってきましたが、人と人のつながり、地域と地域のつながり、さらなるコミュニティの活性化が期待されるようになりました。

区は、「誰もが住みやすく、地域に愛着と誇りを持てるまち・港区」を掲げ、さまざまな施策推進に取り組んでいます。その実現のためには、区だけでなく、地域活動のコミュニティリーダーの存在が欠かせません。

CC クラブの皆さんには、コロナ禍においても、区で進めているデジタル支援の一つである町会・自治会活動の ICT 化支援事業でも、ご協力いただいております。今後も、CC クラブの皆さんには、コミュニティリーダーとして、地域の活性化と発展のために、大いにご活躍いただきたいと願っております。



来賓の挨拶の後に、岡本多喜子明治学院大学名誉教授、高橋尚也明治学院大学総合企画室次長、山岸信明治学院サービス部長、大野香乃子高輪地区総合支所協働推進課地区政策担当係長、高嶋慶一港区社会福祉協議会事務局次長、加藤三奈港区社会福祉協議会地域福祉係長、枳堀賀江港区立介護予防総合センター副センター長が紹介された。

2023 年第 8 回 CC クラブ 総会 (書面議決報告会)

石川代表が進行役を務め報告会を開始しました。最初に岩佐総務部会長より書面議決の結果報告が行われ、議決承認が確認されました。

総会開催案内発送総数は 755 通でした。

回答数はハガキ・FAX 199 通、メール 122 通、合計 321 通で、第 1 号議案については賛成 314 通、

反対 0 通、無効（回答なし）7 通、第 2 号議案については賛成 315 通、反対 0 通、無効（回答なし）6 通、そして第 3 号議案については賛成 314 通、反対 1 通、無効（回答なし）6 通でした。



続いて、石川代表が第 1 号議案について、2022 年度の活動内容と会計内容を説明しました。次に第 3 号議案（2023 年度役員選任の件）の説明を先に行いました。第 2 号議案（2023 年度活動計画）については、阿部令子新代表が、活動方針、活動テーマ、運営部門の計画、各部会のメンバーと計画、そして地域 CC クラブの計画を紹介しました。質疑応答はなく、新役員 7 名が壇上に上がり自己紹介をしました。

最後に、司会者に促され石川代表が自身の副代表・代表の 4 年間を振り返り感想と皆さんに謝辞を述べ、総会は終了しました。

総会資料はホームページをご覧ください。

ホームカミングデイ (第 9 回学ば会)講演会

はじめに CC クラブ新代表の阿部令子さんから講演者の西田宏子さんの経歴紹介がありました。

西田さんは、うさぎ年の生まれで、1961 年に慶応義塾大学文学部史学科を卒業し、東京国立美術館の当時の浅野長武館長の秘書を務め、諸外国より博物館を訪れた研究者の調査に立ち会ったことが、陶磁器に関心を寄せるきっかけになったそうです。

その後、日本から輸出された磁器「伊万里焼」について研究するために 1968 年オランダ留学、さらには 1971 年オックスフォード大学、大学院博士課程に進学。1975 年、17 世紀から 18 世紀における日本の輸出磁器についての研究で博士号を取得されました。

帰国後、韓国留学などを経て 1981 年から現在まで根津美術館に勤めていらっしゃいます。

留学中にオランダの青空マーケットやロンドンのオークションで、西田さんの目に留まり、集められた貴重で素敵な器の数々が今、根津美術館で展示されています。

美術館の美しさと美術館のこれからを考える

講演者 根津美術館顧問(元美術館副館長兼学芸部長)
西田宏子(CCクラブ 9 期)

明るい笑顔で話される西田さんの話は、美術品を愛してやまないご自身の気持ちが伝わってきました。話の内容を抜粋してお伝えします。

最初に美術館の楽しさについて話します。

コロナ以前では誰もが見たい展覧会は長蛇の列で大混雑でした。美術鑑賞のためには、小さな美術館に注目して会員となり、ホームページなどで年間スケジュールを調べて予約することで、並ばなくて済み、ゆっくり楽しむことができます。

根津美術館は世界に開かれた美術館を目指して努力と工夫をしています。四季を楽しめる庭園も広くて見どころがあり、燕子花が咲き誇る庭園でもあります。毎年展示される根津美術館の代表作品である尾形光琳の国宝「燕子花図屏風」は、折り曲げて展示することで見方が変わります。国宝「那智瀧図」は、目立つ滝だけでなく、月や鬱蒼とした森にも注目できます。

作品のタイトルにも工夫を凝らします。昔の崩し書きの文字に親しんでもらうために、「読めなくてもいいね」というタイトルに惹かれて人が集まりました。展示を短期間で変えることにより、



楽しい雰囲気での講演会場

何度訪れても新しい発見があるようにします。お茶室の展示では、畳に座っている人の目線で作品や調度品を配置し、心安らぐ自然の壁を使用しました。

続いて美術品を守る工夫について話します。

美術品を守る工夫は大切です。楽しさの裏には災害が潜んでいます。最近の能登半島珠洲市での地震では多くの展示品が倒れました。倒れない工夫としてはテグス(釣り糸)を使用して大井戸茶碗(銘は雨雲)を固定しましたし、中国時代の青銅器の展示室は免震装置のある特殊なガラスケースで保護しています。

今後は、自然光が当たっても良い作品と悪い作品を区別して展示位置を決めたいと思いますし、庭園を合わせて観ていただけるよう、四季を楽しむ、アオサギ、セキレイ、池の鯉、春に咲き誇る燕子花、秋の紅葉、冬の雪景色をガラス張りのロビーから楽しんでいただきたいと思います。

今、世界各地で戦争が起こっています。日本でもその危険性は零ではありません。先の戦争では、戦災から美術品を護るために、根津美術館だけでなく殆どの美術館、博物館が美術品を疎開させました。このことを、忘れてはなりません。南青山にある根津邸は3棟の蔵を残して完全に焼失してしまいました。終戦後 1946 年秋に展覧会を庭園に建てたバラックで開催しました。1956 年に美術館の建物を建て、増改築を経て 2009 年に新たな展示館ができました。戦災があっても地震があっても、文化的パフォーマンスで人を元気づけることができます。

次に、作品との対話について話します。

絵の中で作者が語ろうとしていること、絵が語りかけてくることを素直に受け止められるようになりたいと思います。同じ作品でも、ステーションギャラリーより中之島美術館の展示に感動しました。来館される方々が楽しく展示品と向き合える美術館にしたいと思っています。



2009 年に新装された現在の根津美術館

お二人に感想をいただきましたので紹介します。

CC 大学で学んだ美術の先生のお話の中で「現在ではインターネットで美術品の詳細を観て知ることができるのに何故美術館へ行って観てくださいか」といって、実際に行って観ることによってその大きさが分かるからです」という言葉が印象に残っています。

旅先で近くの美術館を訪れるのも良いと思います。長野に行ったとき、美術館の名前は忘れましたが、友人たちと一緒に訪れた美術館で、上村松園の絵を観ることができました。美人画といえませんが思い浮かぶのは伊東深水ですが、女性による美人画はまた違った趣でした。その息子さんも絵描きで、こちらは動物の絵を描いていました。お孫さんも絵描きで、父親と同じ動物の絵でしたが、こちらは動きのある動物の絵でした。それぞれ親とは対象の異なる絵で見応えがありました。

山梨美術館へ行ったときはミレー展をやっていて、この時は「種蒔く人」の大迫力に圧倒されて来ました。

講演を聞いてすごく行きたい衝動にかられ、まだ見ぬ根津美術館を訪問してみることにしました。さすが隈研吾さんの設計です。美術館そのものが芸術作品であり、訪問客がかなり沢山いたのにも関わらず、都会の喧騒の中で、そこだけは自然に囲まれた静かなオアシス空間でした。そして一步展示室に足を踏み入れてみると、作品説明の丁寧さ、鑑賞者への気配り、作品管理への努力と工夫が至る所に感じられ感動の連続でした。

美術館の中は、建物を含め日本文化を凝縮する作品が多く、外国人に人気の理由も頷けました。西田コレクションを含め海外からの古美術品も多く、そうした作品を鑑賞しながら、色々な国の歴史を探訪しているような気分になりました。

西田コレクションには、小さくてかわいいものが多く、ああこれを西田さんはチョコレート箱に入れてベッドの下に大事に保管されていたんだなあと講演会でのお話を思い出して、思わず微笑んでしまいました。これからチョコレートの箱を見るたびに、根津美術館の素敵な展示物とともに、西田さんのお話を思い出すことなのでしょう。そして燕子花の咲くころに、また、この美しく心安らぐ美術館を訪れてみたいと思います。西田さん、素敵な講演をありがとうございました。

学ぶ喜びと出会いをありがとう！

～15期生から寄せられた声～

CC大学での講義は有意義なものばかりでした。また、明治学院大学のキャンパスライフを満喫した一年間でもありました。最も勉強になったのは、グループのみなさんと講義のあとに放課後と評して懇親会を開き、ビールを飲みながら、意見交換の場を持てたことです。このご縁を繋いで、これからも毎月第3水曜日に定例会を開催し、いろいろな企画を展開し、地域に貢献したいと考えております。 岡田 梨香

バス停前の高野山東京別院にはじまり、レトロモダンな高輪消防署、木造のチャペル、コンクリートの講堂、レンガの図書館からガラス張りの食堂まで、新旧の建築が心地よく入り混じった高輪への登校日は、私にとって特別な空間体験でした。教室での授業だけでなく、この体験が普段何気なく過ごしている赤坂の街にも、もっと目を向けようと思わせてくれました。たいへん感謝しております。 横田 重雄



入学式

一年間大変お世話になりました。社会福祉、日本美術、建築、現代文学、フランス文学、音楽、スポーツ等、多方面で驚きましたが、どのテーマも興味深く、教授陣の他、岩手、長野、神奈川等から講師をお招きしてのご講義も、印象に残っています。また区長、区役所の方々のご講義、区議会場見学も、勉強になりました。今後は少しでも恩返しできるよう、港区の活動に参加させていただく所存です。 T. N.

多岐にわたる講義を一年間受ける事が出来ました。印象に残っているのは、お天気に恵まれた校外学習、見学等です。色々な人生経験を積まれた人達とお友達になれた事が何よりの収穫です。 宇野 美枝子



スポーツ実習

CC大学での講義資料を整理しながら、改めて貴重な体験をさせて頂いたことに感謝です。贅沢を言わせて貰えば、もう一年深く学びたかったと思うのが本音です。明治学院のショウシヤな雰囲気の中へ通学出来たのも、誇らしかったことの一つです。今日が一番若い日と言います。自分に合ったボランティアを見つけて、過ごして行きたいと思います。 井柳 万世

充実した一年を過ごす事が出来ました。様々な分野の先生方の講義は時に難解な事もありましたが社会福祉や貧困問題、港区の歴史を遡る授業や明治学院構内散策等心に残りました。水曜の講義後礼拝堂のパイプオルガンの響きに心静かな時間も過ごす事が出来ました。CC大学関係者の皆様に心より感謝申し上げます。 大道 眞弓

四季折々美しい装いを見せてくれる明治学院で、講義を受けたり、学友たちと親交を深めたり、学食でランチしたり、図書館で借りた本を時間も忘れて読み耽ったり…この学生時代の再来に、わくわく、ほっこりとする一年でした。郊外授業に、体育館での実践授業、音楽の夕べ。

等々盛りだくさんのイベントも忘れられない思い出です。これで老後もばっちり！おかげで生きがいのある後半生を送れそうです。CC大学に感謝一杯です。

森 容子



増上寺見学

実に58年目の学生生活で、又生まれ代わったような経験でした。1時間半の中で、講師の先生方も内容を煮詰めて用意して下さったことに感謝申し上げます。殆どが年上で経験も豊富な生徒なのに、専門分野ならではの学びでした。港区役所の行政議場見学や課外実習で横浜キャンパスを訪れたのも楽しい思い出です。ありがとうございました。

M. Y.

CC大学（講義と参画）において、講義は洗練された奥深い内容であった。参画は見学、自然散策などは特有の経験であった。社会福祉の学習は、有益で今後の活動に役立つと考えられる。港区独自の①課題（高齢者、障害者、子育て、防災、グローバル化、孤立化）と②取り組み（町会・自治会、民生委員・児童委員活動など）に向け、まず防災とボランティアに注力し、活動範囲を広げてゆきたい。

宇津 真治



チャペル見学

昨年4月から一年間、明治学院大学に於いて良い経験をさせて頂きありがとうございました。講義に関しては、興味深いもの、ユーモアを交えたもの、気が付けば居眠りしていたもの、全般的に福祉がメインの構成になっており、避けられない現実の問題に重苦しい気持ちになることがありました。また、新しい出会いもあり、CCクラブに参加することで地域活動を行っていきます。明治学院大学事務局の皆様、大変お世話になりました。

野口 直子

振り返れば、今までの人生で何度「卒業」と言う言葉を使っただろうか？一番最近だとCC大学の卒業だった。[老いる]と言う未体験ゾーン突入。今まで出来た事が、こんなはずじゃなかった事が、もちろん体重も増えた。そんな中、新しい友と出会い、学ぶ体験もできた。次のステージの準備完了。知り得た種を蒔き、どんな花が咲くか楽しみにしている。ありがとうございました。

佐藤 恵子



スポーツ実習

少しの不安と好奇心をいっぱい一年はあっという間に楽しく過ぎ知る事の喜びと、これからの人生に素敵な仲間ができました。入学してすぐに、思いもよらず家族の介護生活が始まり体力的にも継続は無理かと思われた時は「介護実習」と前向きにとらえ仲間の応援に助けられ修了式を迎えられたことは本当に嬉しかったです。そして何事も知る事で力強くなれる事の大切さを実感しました。

森 輝子

チャレンジコミュニティ大学で学ぶことができ充実した一年間でした。厚くお礼申し上げます。CC通信では諸先輩方の活動報告書は大変参考になりました。地域の中で住みやすく安心して生活できる街を目標に皆様と一緒に歩んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

H. S.



港区議会棟見学

シニア世代の孤立化防止のため、受講生自身が孤立化しないための努力を続けるのは当然として、受講生が、大学の同期や先輩とともに大学で得た知識を生かして、シニア世代の孤立化防止のためのさまざまな活動を行っていくという施策は、大変素晴らしいものだと思います。これからも、ずっと継続してください。

谷 淳

この度の講義は大変充実しており、満足すると同時に感謝しています。福祉分野は知識の習得に役に立ち、行政に関しては区議会議員見学や、予算執行状況など港区の理解に役に立った。文学や心理学についても島崎藤村の意外な面の理解や高橋源一郎さんの現代小説の読み方などの講義は興味深かった。健康スポーツも理論と実習があり充実しており今後もこの方向で展開していけばよいと思う。

佐藤 直樹

CC大学ではバランスのとれたカリキュラム（一般教養、福祉、健康）と明学大の素晴らしい講師陣による講義を受けられたことに満足し、大変感謝しています。これからの人生、会社人から地元地域人としていかに地域コミュニティライフを過ごしていくかを模索する目的でCC大学

を受講しました。しかし、現時点では具体的なコミュニティライフの方向性や取り組み事案は見つかっておりません。CC大学で学んだことを基本に、[みなとタウンフォーラム]、[シルバー人材センター]、[いきいきプラザ]等いろいろと接点をもちながら何か柱になる地域活動が見出だせるよう実践していく所存です。

中村 豊

CC大学での一年間はバラエティに富んだカリキュラムで楽しく、しかも緊張感のあるなかで最後まで修了することが出来ました。ありがとうございます。今まで福祉関係の知識は乏しかったのですが色々知る事が出来、少し身近になりました。これから先、地域で困っている事、足りない事に目を向け自分が出来る事、仲間と出来る事を実践していこうという気持ちになっています。

山本 和子

自分の意志というより、サークルやボランティア活動の仲間の後押しで参加したCC大学でしたが、講義内容も仲間との交流も充実したものでした。身構えることなく一步を踏み出してみると、意外にたわいなく次に進めるものだと学びました。この次は何が出来るか楽しみになって来ました。

高橋 恵美子



春学期まとめの会

長年のCC大学の実績から選定された幅広いジャンルに渡る素晴らしいカリキュラムはとても魅力的で毎回新鮮な発見がありました。グループ内で素敵な友人ができたことはとても大きな喜びです。これから部会や地域のクラブのメンバーとして活動させていただきたいと思って

おります。CC大学で培った知識や経験をこれからまた違うグループで役立てていけたらと期待しております。このような機会を賜り先生方はじめ関係者の皆様にも深く御礼申し上げます。

鴨下 尚子

港区、明治学院大学や事務局、先生方、ゲスト講師の方には大変感謝します。ありがとうございました。ほぼ全学部にわたる授業で、キリスト教学の授業はありませんでしたが建学の精神「Do for Others」を折々に感じました。今後は俯瞰的な見地からも貢献協力していきたいと考えています。またこれから社会に巣立っていく学生にも応援したいと感じています。

表 良吉

2022 年度コロナ禍、港区と明治学院大学の丁寧な対面講義にとっても感謝しています。一般教養から福祉に関わる講義、健康増進のストレッチやウォーキングを教わり 1 科目 1 科目が勉強になりました。その中でも明治学院卒業生バッハ・アカデミー合唱団の歌声に感動を受けました。此れからは様々な講義の内容をいかしてCCクラブの一員として地域作りをしていきたいと思ひます。

Y. K.



自然探索

あっという間の一年でしたが、世の中にはまだまだ知らないことがいっぱいある、それを改めて認識させていただきました（ただいま少々CCロス気味です）。これからこの地域でどう暮らしていくのか、お役に立つとかそんな大それたことではなく、自分がどう生きていくのか。まだまだ見えていないことも多々ありますが、とりあえずまずは楽しさを求めていけたらと思ひております。

久我 英二

港区長様はじめ港区の方々、明治学院の先生方にCC大学のOBの皆様の御蔭で貴重な体験をさせていただき感謝しております。青春時代に戻ったような感覚でした。古い脳もいつになく活性化し、体力的にも覇気がでて活き活きした一年間を送ることができました。バラエティに富んだ授業は魅力的でした。この後どうすればいいのかOBの方々どうか御指導下さいませようをお願いいたします。

河野 貴代子



自然探索 1 グループ

CC大学を通じて地域活動に必要な基礎知識やヒントを学ぶことができました。2 月最終講義のまとめの会で「何等かの活動及びボランティアを既に開始/継続している」メンバーをグループで集計したところ、出席 18 名中 12 名でした。この数字はCC大学での学び・情報・ご指南が前に進む力になったのだと感じております。

自身の今後としましてはボランティアや文化交流等を通じて地域活性化の一助になればと思ひております。

Y. Y.

私がCC大学に応募した動機はボランティア活動への手がかかりを求めるためでした。受講した講義は、今まで自身の中で通り過ぎていた内容を掘り下げるものであり、感動するものもあれば改めて考えさせられるものもありました。自分の認識の甘さを知ることとなりました。今後は、この一年を通して学んだことや関わりを頂いた方たちのご縁に感謝し、自分なりの活動に参加していきたいと思ひます。

N. K.

楽しかった一年が終わり、いよいよCCクラブの活動が始まります。自分のできること、やりたいことに全力で挑戦したいと思ひます。

M. S.

明治学院でのさまざまな分野の授業、区役所・増上寺等学外での講義等、多彩にわたっており、毎回、興味深く受講させて頂きました。また、ボランティア活動の紹介を受け、活動をはじめることが出来、今後も続けていきたいです。非常に有意義な時間をすごせたと感謝しています。

今回は妻と参加しましたので、これからの人生、妻との会話の内容がひろがったと思っています。

阿部 正人



自然探索 2グループ

71歳になり仕事も一段落し、かねてよりCC大学を勧められていたので受講することにしました。半世紀振りの学生生活は新鮮なものでした。多岐にわたる授業はまだ人生を頑張らなければいけないと刺激を頂きました。一番の収穫は同じ港区内に住みながら地域により文化の違いがあることでした。そんな校友と修了式を終えても交流出来ることは嬉しいことです。一年間有難うございました。

池上 繁夫



自然探索 3グループ

CC大学の一年、クラス仲間と楽しく、各種の講義や、見学、老体の自分には大変でもあり、次つぎの期待と楽しみの連続、終わってみればあっという間の一年、本当にありがとうございました。現在、自分の身体や五感の何と衰えて

来たことか。これからの今後のこと、健康と生き方も考え、これより先、高齢相互場的にて、ささやかなお手伝いを、CCクラブ先輩の皆様のお話を伺い、今後の事と致したく、先ずは自分の体力を考えながら…

遠藤 留雄

戦後の日本で、安全な世の中が続き、高度成長、バブルも経験した世代が集まり、港区と明治学院大学の共催の下、学業に就くことができました。今までも良き時代を生きてこれて、今回も大変貴重な体験と多くの知己に恵まれ、大きな財産となりましょう。また、制限のある状況の中、経験と努力でご準備され、本講義を提供していただいた方々に感謝するとともに、今後も、末永く続くことを祈願して止みません。

穴戸 康浩



芸術鑑賞

昨年4月より一年間、明治学院大学白金キャンパスにお世話になりまして、素晴らしい授業を受けさせて戴きましたことは、普通の大学を出ていない私にとって、とても良い経験でした。この経験を活かして、この年齢まで携わって来ました現代医学・現代医療とは視点の違った健康法を、皆様方にお伝えすることができましたらと考えています。

松田 恵子

CC大学の講義は、たくさんの講師が入れ代り登壇し、講義の内容のみならず講師の個性や思想的背景も垣間見え、大変興味深く拝聴できました。図書室も学生と同様に使用することができ、いつも講義が終わった後に静かな図書室で復習するのが楽しみでした。大変意義深い一年間だとおもいますので、今後もたくさんの人が学べるよう継続されることを願います。

大石 克也

懐かしいにおいのする教室。40 数年ぶりの“学生”として大変貴重な時間を過ごさせていただき有難うございました。歴史的建造物の数々、パイプオルガンの音、大銀杏と銀杏並木、もう、忘れられない風景です。島崎藤村を初めて深く知ったこと。他にも印象深い講義ばかりで、年々理解力が低下する中、一生懸命向き合いました。CC大学を運営してくださった皆様、大変お世話になりました。有難うございました。

H. N.

親の介護と両立出来るかなと思いながら通ったCC大学を無事修了し、どんな時でも挑戦できると言う大きな自信と達成感になりました。特に《1 Day for Others》で出会ったCCクラブの多くの方々は10年以上もさりげなく、力強くボランティア活動をされているのを知り感動しました。学んだことを糧に《人と人との繋がりを出発点に》の言葉と共に歩みつづけます。

笹栗 美賀子



福祉施設特別授業

CC大学での学びにより自分の世界が広がる実感を得られ、修了が淋しくなりました。しかし、これは終わりではなく始まりなのだと考えると、これからの自分が楽しみです。もしも入学をお迷いの方がいらしたら、お勧めさせて頂きたいと心から思います。学校各位も非常にご親切で、何の心配も要りません。ぜひ新しい扉を開いて、人生を更に謳歌なさってください！

松尾 澄子

会社勤めも終わり、好きな事をし放題と思っていました。当初はそれなりに趣味の世界に没頭していました。その時偶然にCC大学の募集

要項を目にし、早速応募しました。地域活動のリーダーを養成する事を目標に、様々な分野の講師陣から充実した講義を受講しました。途中病気のため欠席しましたが事務局や同期生の皆様からサポートを頂き、何とか修了する事が出来ました。今後はCC大学で学んだ成果を基に地域活性化の一助となるように頑張ります。

笹栗 淳一



スポーツ実習

会社員の生活を終え、学びの場を求めているところ、「チャレンジコミュニティ大学」第15期生募集を知り、早速応募しました。4月の入学式以降、講義では地域行政、福祉、文学芸術、法律、健康スポーツなど多分野にわたり、学ぶ機会を得ることができ、有意義な一年間でした。港区と明治学院事務局の皆様をはじめ、先生方には大変感謝をしています。

福田 昭

2020年度の入学予定がコロナ禍のために中止、2022年度第15期生として入学許可をいただき、あっという間の一年、皆勤賞をいただいていたの充実した学生生活が送れました。福祉、行政、健康、文学・芸術、心理、社会など知的好奇心が大いに刺激され、先生方の熱意溢れる講義の数々、ありがとうございました。今後は地域CCや部会活動等に積極的に参加させていただきます。

大友 登喜雄



宿泊研修に代わる特別講義

テニスもまだバリバリ（？）とやっている私は、入学するときに「介護や福祉」と聞いたときは、正直かなり抵抗感がありました。でもレクチャーを受けるにつれて、今まで気にも止めなかった社会問題などが目から鱗状で、次の講義が待ち遠しいほどでした。留年してもう一年受けたいと思っているほどです。このような機会を提供していただいた明治学院大学や港区の関係者の方に感謝いたします。 周藤 孝夫

CC大学で学べて、本当に良かったと思っています。一年間講義を受け、数多くの気づきがありました。視野も広がったように思えます。また、学ぶことの楽しさも知ることができました。大学修了後の自分自身の変化も感じています。ニュースを見ていても、違った見方をするようになりました。以前は、一方的にこれが悪い、あれが悪いからと口にしていました。今は、私は何ができるだろうか？何をすべきなのだろうか？などと考えるようになりました。一人の力は小さいけれど、一人でできることは一人です。一人ではどうにもならないことは、共に学んだ仲間の力を借り、また地域の人と共に、少しでも笑顔の溢れる地域作りができたと思っています。 碓屋 美樹子

昨年の入学式から一年が過ぎ、今資料の整理をし読み返しています。幅広い分野の講義を受け感謝しております。先生方の熱く時には難解な講義も楽しく受けました。舞岡公園の自然散策も楽しい思い出です。同じ目的のある友人と共に学び有意義な一年間でした。これからは健康で元気に地域活動に参加できればと思います。先生方、事務局の皆様ありがとうございました。

川名 まち子



自然探索（横浜校舎チャペル前にて）

明治学院高等学校家庭総合科 授業協力ゲストスピーチ

5月29日から6月1日までの4日間8時限で、明治学院高等学校3年生の家庭総合「高齢者」授業でCCクラブ会員16名が授業協力を行いました。過去3回この授業協力を行いました。今回は明治学院高等学校からCCクラブに依頼があり行われました。

授業は1クラス約35名の45分間で、会員3名が過去の自身の経験や現在の活動そして「日々の生活について」を7～8分間話し、その後質疑応答が行われました。

各授業で、高校生は真剣にスピーチを聞き、メモを取り質問をする姿に接しました。

後日、参加者全員に高校生から心のこもった感想文が送られました。



参加した岡田梨香さん（15期）の感想です。

真っ直ぐに私を観る高校生の目は輝き、若さのパワーを貰いました。先に生まれた者として背中を押すことはできたかと思います。失敗することを怖れずに、それを乗り越えていけるような強い大人に成長してほしいと願っています。授業を受けた高校生の感想を紹介します。

趣味や娯楽、やりがいのある仕事をしていて、毎日を有意義に過ごしている感じがする。できないと思わずに、やりたいことをやっているところが楽しそうであこがれる。もっと毎日が暇になっちゃうと思ったけど、高齢者であっても若年層と同じくらい活発で“生きてる”って感じがする。高齢者の方々の18歳頃は今とは全く違うけど、やりたいことをやって生きることが大切なのは今と変わらないと思ったから、自分の人生を決める上で参考になった。

自分の育った地域のために貢献できる活動を行っている自分の地域の高齢者を身近な存在に感じられました。

■運営委員会報告

2023年度の運営委員、部会員、地域CCクラブ委員は以下の通りです。
2023年度 CCクラブ運営委員会・部会メンバー (2023年6月17日現在)

	代 表	阿部 令子 ^⑩	副 代 表	瀬能 正実 ^⑩	松嶋 恵美子 ^⑩
運営委員会	運 営 委 員		運 営 委 員		運 営 委 員
1 期	② 吉田 秀博	8 期	③ 秋元 宏	13 期	① 金城 恒夫
		9 期	① 里村 元彬		② 廣田 紳一
2 期	② 野口 美津子	10 期	① 鈴木 真理子	14 期	③ 東 公子
3 期	② 雨宮 武		② 瀬能 正実		① 菊池 誠
4 期	選出せず	11 期	③ 丸山 幸秀	15 期	② 吉野 由美子
5 期	② 小林 桂樹	12 期	① 石塚 敏子		③ 宮城 昭一郎
6 期	② 来代 早苗		① 本藤 英敏		① 谷 淳
7 期	② 太田 則義		② 篠原 みどり		② 安井 裕子
			③ 富岡 良美		③ 岡田 梨香

部 会	部 会 長 副部会長	部 会 員			
企画部会	太田 則義 ^⑦ 小川 寧子 ^⑬ (副) 清水 和美 ^⑬ (副)	野口 美津子 ^② 丸山 保夫 ^⑦ 西田 宏子 ^⑨ 阿部 令子 ^⑩	平田 渥美 ^⑫ 中嶋 博 ^⑫ 亀卦川 純一 ^⑫ 平内 利光 ^⑫	内田 眞也 ^⑬ 藤井 宝 ^⑬ 桑原 いづみ ^⑭ 深澤 あつ子 ^⑭ 須田 房子 ^⑭	鴨下 尚子 ^⑮ 北川 範子 ^⑮ 齋藤 美加代 ^⑮ 高橋 恵美子 ^⑮ 難波 富貴 ^⑮
H P 部会	岡部 正實 ^⑩ 福岡 哲郎 ^⑩ (副)	斎藤 正精 ^⑥ 佐藤 紀子 ^⑥	石賀 幹春 ^⑨ 松尾 知足 ^⑭		
地域連携部会	金原 智子 ^⑩ 太田 則義 ^⑦ (副) 今泉 昌代 ^⑩ (副)	西多 和子 ^④ 呉 東富 ^⑤ 大塚 堅一 ^⑪	山岸 洋子 ^⑫ 丸毛 昭生 ^⑬ 荒川 太 ^⑭	小杉 良子 ^⑭ 大友 登喜雄 ^⑮	
会報部会	瀬能 正実 ^⑩ 佐藤 芳男 ^⑪ (副) 中満 美紀 ^⑪ (副)	古橋 義弘 ^① 太田 則義 ^⑦ 境 静子 ^⑩	肴倉 弘子 ^⑪ 棟方 千恵子 ^⑫ 宇津 真治 ^⑮	森 容子 ^⑮ 長峯 浩子 ^⑮ 周藤 孝夫 ^⑮ (協)	
総務部会	岩佐 徳太郎 ^⑨ 秋元 宏 ^⑧ (副)	石川 啓子 ^⑧ 丸山 幸秀 ^⑩	松嶋 恵美子 ^⑩ 河野 洋子 ^⑫	吉野 由美子 ^⑭ 池上 繁夫 ^⑮	

・部会長・副部会長の(副)は副部会長

地 域 C C ク ラ ブ (運 営 委 員)			
芝 C C ク ラ ブ	吉野 由美子 ^⑭	明虹会(港南・芝浦・台場地域)	福岡 哲郎 ^⑩
高輪地区 C C ク ラ ブ	小峰 由紀 ^⑩	3 A クラブ(赤坂・青山・麻布地域)	野村 知義 ^⑧

運営委員会の●数字はグループ、それ以外の欄の○数字は期です
地域CCクラブ代表

地 域 C C ク ラ ブ (代 表)			
芝 C C ク ラ ブ	石川 啓子 ^⑧	明虹会(港南・芝浦・台場地域)	斎藤 正精 ^⑥
高輪地区 C C ク ラ ブ	太田 則義 ^⑦	3 A クラブ(赤坂・青山・麻布地域)	野村 知義 ^⑧

編 集 後 記

コロナ禍の波に飲み込まれた3年間、私たちの日常生活は制約され、CCクラブ活動も中止や延期せざるを得ないことが多くありました。5月より5類へ移行することにより、活動制約も緩やかになりました。

本号では、CCクラブの新体制や、各部会の活動内容を紹介しています。「自分の健康は、自分で守る」ことを忘れずに、再び活動が前進できるよう願っています。

(11期 中満 美紀)

(表紙の花の写真は9期平尾恭一さん提供)

チャレンジコミュニティ通信 vol.50 2023年8月1日発行
発行者 チャレンジコミュニティ・クラブ
事務局 明治学院大学 総合企画室社会連携課
(株式会社明治学院サービス)
〒108-0071 東京都港区白金台1-2-37
Tel. 03-5421-1555 Fax. 03-5421-1556
Email ccclub@meijigakuin-s.co.jp
<http://www.minato-ccc.jp>

会 報 部 会

部 会 長 瀬能 正実 (10期)
副部会長 佐藤 芳男 (11期)
副部会長 中満 美紀 (11期)
部 員 古橋 義弘 (1期)
部 員 太田 則義 (7期)
部 員 境 静子 (10期)
部 員 肴倉 弘子 (11期)
部 員 棟方 千恵子 (12期)
部 員 宇津 真治 (15期)
部 員 長峯 浩子 (15期)
部 員 森 容子 (15期)
協力部員 周藤 孝夫 (15期)